

2021年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>各授業担当者・各教科において、年間指導計画や週ごとの指導計画に基づいて、授業内容・授業方針の質的向上を図り、各教科の基礎的・基本的事項を定着させる。 「教材の工夫」「繰り返し学習」「個別指導」「長期休業中の補習」「言語活動」の充実を図る。 ICTを有効に活用し、体験的な活動や具体物による視覚的にわかりやすい授業になるよう工夫する。</p>

授業改善の重点
<p>「授業のねらい」「授業の流れ」を明確にし、生徒が見通しをもって臨める授業を目指す。 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための指導を充実させていく。「分かる授業」「個に応じたきめ細やかな指導」を各教科において行う。 「話し合い活動」を工夫するなど、言語活動の充実に努め、生徒が自ら考え、まとめ、発表する力を身に付けさせる。 学力の基礎・基本の定着に向け、ICTを有効に活用しながら、繰り返しや補充的な学習を推進する。</p>

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ・Chrome bookを活用し、体験的かつ視覚的な支援を行い、対話的な授業を構成する。 ・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴覚機器を使用し、分かりやすく、達成感を味あわせる。 ○作品鑑賞を通し、一人ひとりを認め合う心を育成する。 ○作品制作を通して、創造活動の楽しさを味あわせる。 		
	社会科	保健体育科	特別活動の指導の重点	学級活動・生徒会活動等において、ICT機器を用いた発表活動を取り入れるなど、ICT機器を有効に活用した活動を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツを念頭に、自身に適切な運動が処方できるために準備運動を考えさせる。 ・保健では知識習得型、一斉指導型ではなく、保健の知識をもとに自分の生き方や心身の健康増進生活を実践させる。 		
	数学科	技術・家庭科		
	標準コースでは、授業の始めに計算問題を行い、基礎計算力を身に付けさせる。発展コースでは、多様な解決方法を発表し合い、共有していけるようにする。また、Chrome bookやプロジェクターを活用し、視覚的にも時間的にも有効に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間本時のねらいと作業内容を明確にし、指導の徹底を進めた。机間指導を多くし、個々への助言を適切に行う。 ○視聴覚機器の充実を図る。 		
	理科	外国語科		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学力の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出文型(文法)の導入や内容理解のための活動などを行う時にICT機材を含む視覚教材を積極的に活用し、なるべく英語で理解を促進し、対話的・主体的で深い学びにつなげる。 		
音楽科				
<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞、合唱や器楽演奏を通し、表現力を身に付け、豊かな情操を養う。 				

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	構造的な板書とノートの指導	認め合う・学び合う集団の形成
	指導方法に効果的なChromebookやプロジェクター等のICT機器の利用を取り入れ、視覚的にわかりやすく、体験的・対話的な授業とする。	本時の目標と本時の流れと振り返りを、授業前にしっかり板書することで、生徒がより学習内容を理解できるようにする。また、必要な情報をノートに書き写したり、自分や他者の考えを書き加えたりしながら、ノート指導とも連動していきたい。	安心し・集中して学習ができる環境(UD化)をつくり、生徒たちが自分の考えを伝え合う中で、他者の考えを認め合い、自己肯定感が高まるようにする。また、個に応じた指導をすることで、生徒一人一人が粘り強く課題に取り組み、目標を達成する喜びを味わえるようにする。

学力調査の状況	
<p>どの教科も、都の平均を下回っている。また、すべての観点においても東京都の値よりも下回っている。特に、国語、数学、英語の教科の「知識・理解」は、都の平均正答率を10ポイント以上、下回っている。</p>	

見えてきた課題	
<p>すべての教科が東京都の平均を大きく下回っている。そのため授業において、ねらいを明確にした上で、話を聞く時には聞く、板書をノートに書く時には書くといったメリハリをつけさせ、集中して取り組む指導が必要である。</p> <p>基礎的・基本的な事項をしっかりと理解させ、定着させる指導を継続して行い、生徒が自主的・自発的に学習できるような指導の工夫や、すでに学んだ知識や技能を活用し、筋道を立てて課題を解決する能力を高める指導の工夫を行う必要がある。「関心・意欲・態度」を高める指導を大きな課題として、今後の授業の展開について、強化・改善を図りたい。</p>	

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> Chrome bookを活用し、体験的かつ視覚的な支援を行い、対話的な授業を構成する。 言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップを踏んだ授業計画をもとに、対話的な活動を充実させる。 文章を作る機会を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がChrome bookで作成した資料をもとに、対話的な活動を充実させる。 自分の考えを述べる授業を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がChrome bookで作成した資料をもとに、対話的な活動を充実させる。 論理的な文章を作る機会を多くとることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、興味関心を高める。 対話的な活動を取り入れることで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題について取り扱うことは、身近な社会的事象に対する興味関心を高める。 対話的な活動を取り入れることで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時事問題について取り扱うことは、身近な社会的事象に対する興味関心を高める。 ICTを活用し、調べ学習を行うことで資料活用能力や思考力の向上を図る。 授業の終わりに振り返りの時間を設定し、概念の定着を図る。
数学科	<p>標準コースでは、授業の始めに計算問題を行い、基礎計算力を身に付けさせる。発展コースでは、多様な解決方法を発表し合い、共有していけるようにする。また、Chrome bookやプロジェクターを活用し、視覚的にも時間的にも有効に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業では前時の振り返り、復習を行い、授業理解をする。 スモールステップの授業を展開し、また、授業での演習時間を多くとることで、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業での演習時間を多くとることで、基礎・基本の定着を図る。 生徒に説明させる場面を通して、自分の考えをしっかりと述べる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明示することで、その時間で定着させる力を明確にする。 授業で入試対策問題を取り入れ、計算力を身に付けさせる。 Chrome bookやプロジェクターを活用し、視覚的にも時間的にも有効に活用する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学力の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確立させ、集中して取り組ませる。 ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学習内容の理解を深める。 自分で調べたり、自分の考えをかく活動を多くとり、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを提示して明確することで集中して取り組ませる。 ICT機材を活用し、生徒の興味関心を高めるとともに、学習内容の理解を深める。 自分で調べたり、自分の考えをかく活動を多くとり、基礎学力の定着を図る。
外国語科	<p>○ 新出文型(文法)の導入や内容理解のための活動などを行う時にICT機材を含む視覚教材を積極的に活用し、なるべく英語で理解を促進し、対話的・主体的で深い学びにつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 聞く、話す、読む、書く、の時間をはっきりと区切ることで、授業に集中しやすい環境を作る。 Cromebookを活用した段階的指導を積み重ねることで、基礎学力が身に着く授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 既習事項を生かして課題に取り組む活動を増やし、言語運用能力を高める。 ALTとのTT授業やCromebookを活用して、体験的学習の場面を増やし、基礎基本のより一層の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、授業のねらいとめあてを板書して、学習することを明確にする。 あるテーマに沿った、自由作文やPresentationを積み重ねることで、自己表現力や応用力をつけ、高校入試に向けた対策にする。 「教え合い」を通して、Communication能力と学習定着率を上げ、主体的・対話的な深い学びに